

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4 年 2 月 10 日

事業所名 板橋区立加賀福祉園児童ホーム

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 個別の取り組みはパーティションを活用。 遊ぶスペースは確保されていると感じる（保護者） 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援用の部屋があると良い。
	②	職員の配置数は適切である	10	5	1	<ul style="list-style-type: none"> 職員数が足りている故に手厚くできている支援と児童の自発性への支援との兼ね合いを考えている。 きめ細かく対応していると感じる（保護者） 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤職員について、人数より同一の職員のほうが職員間の連携が取りやすい。 非常勤職員の勤務がない日があったり、感染症対策のために給食時の職員数が減ったり等がある。一方、人員を増やした上で何をしたいか・出来るかという視点も必要と思われる。 部屋数を含めての話になるが、医療ニーズの高い児童への安全な支援を考えると改善の余地がある。 少ないとは思わないが、手が足りていない様子も見られる（保護者）
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	5	1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが楽しく通っているので生活空間は適切であると感じる（保護者） パーティション、テーブル絵などによる手がかり、日程表などを用意している。 支援室の他、バスにもイヤーマフを準備してある。 	<ul style="list-style-type: none"> エレベータの設置を望む声があるが建物の構造上、困難。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 廊下に棚を置き、整理をした。 幼児椅子の古いものを新調。 「生活安心プロジェクト」に基づく遊具点検を行っている（半年に一回）。 業者による固定遊具の点検を行っている（年一回）。 新型コロナ流行以前から日々の消毒は行っており、流行以後はさらに徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> 古い吊り式の扉に不調が見られ始めている。 古い作りのため、テラスや壁など石製であったり匂いが気になる管があったり等するため要修繕箇所など常に留意する。 古さゆえに衛生面には不安がある（保護者）
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の企画・反省は職員全体で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 良くないところを改めれば、良かったところに不具合が生じるという面もあるので、件のサイクルも、業務の全体像を捉えながら、どこに適用していくのかを考えていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は第三者評価も行ったため、そういう年度はご家庭には2回に渡って評価表に記入いただく負担をかけてしまう。

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	1	2	・平成30年度より結果をHPにて公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	0	2	・今年度、第三者評価を実施した。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	0	0	・今年度はオンライン研修を中心に計画・実行した。	・時間や場所の束縛が少ないオンライン研修の良さを活かせるような研修計画の必要性を感じている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16	0	0	・児童発達支援計画の別紙にて児童の状況を記している。入園前、年度中間、年度末に保護者へ聞き取りを行っている。	・児童の、〇〇が出来る、出来ない、出来るようになった等々という目に見える部分だけではなく、それらの背景や過程を意識したり考察したりする意識を養うようにしている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	2	1	・発達検査(K式等)、太田ステージ、ポーター、感覚統合、ABAの視点や各種発達段階表等を療士や心理職の助言を参考にしながら使用している。	・支援者が欲する結論のある療育技法を選んでしまわないよう留意している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15	0	1	・児童やご家庭の全体像を捉えて目標を定めてから各項目に下ろして検討、作成している。	・⑩とも関連するが、達成自体が目的化してしまわないよう、「なぜその支援なのか」を常に念頭に置く。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16	0	0	・「支援計画実施経過表」を作成しており、随時チェックしている。	・左記の経過表の利用により、実行が伴う計画になっている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	0	0	・クラスで話し合いながら立案している。	・様々な発達状況の児童がいる中で、個々のねらいを明確にしながら立案できているか振り返りを行うようにする。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16	0	0	・同じ内容の活動も多いが、一方で子どもの成長がわかるという面もある（保護者）。	・児童の様子に合わせて予定外の方角へ展開できる保育技術も伸ばしたい。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	16	0	0	・「対大人」「対集団」「対他児」などの項目も意識しながら作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	0	1	・毎朝、定時に行っている。	・準備自体は前日を基本にしたいが定着しているとは言い難く課題である。

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	1	3	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の終礼の他、日常的な会話の中でも盛んに行う雰囲気大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 気づいた点を次の支援にどう活かすのかを具体的に考え実行できるようにする。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	1	2	<ul style="list-style-type: none"> • 記録用紙に入力出来ない時もメモに残し後日入力している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他職員の記録であっても他の職員は説明できるように読み込んでおく。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> • 「支援計画実施経過表」を用い、随時チェックしている。 	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> • 各関係者が出席している。 	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> • 必要に応じて保健師や子ども家庭支援センターと連絡を取り合ったり会議を持ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 各機関と協力して支援していく必要性は年々高まっている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12	0	4	<ul style="list-style-type: none"> • ケースに応じて相談支援専門員を介しながら取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 支援の方向性について、医療関係機関とのすり合わせはもっと必要と考えられる。 • 訪問看護事業との連携や在宅支援が今後の課題である。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> • 主治医訪問、受診同行など必要に応じて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 症例の少ない疾患は地域医療が行き届いていないことから地域差も感じられる。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 積極的に電話連絡や訪問などで情報共有するようにしている。 • 移行後のサポートとしてのグループがある(めろん)。 	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> • 就学支援シートや引き継ぎ資料の作成、学校側担任と弊園職員の面談を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計画相談を弊園の相談支援専門員が担当している児童については本人や支援事業との連絡調整はできているが、支援級も含め地域の小学校との連携にはまだ至っていない。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	1	2	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の関係機関が集まる公式の会議(発達ネット)の他、発達支援事業所の連絡会を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 支援事業の併用のあり方について共通理解を深めているところ。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> • 年長児の地域交流保育(ご自宅近隣の保育園の活動に職員と児童で参加)を設定している。 • 区立保育園の要支援児体験保育の情報を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感染対策のため、全体の交流保育は今年度も行えなかった。 • 現在、感染症対策のため、従来行っていた交流が難しくなっている。(職員、保護者とも多数)
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	1	4	<ul style="list-style-type: none"> • 自立支援協議会員として児童発達支援管理責任者が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域主催の、児童主体のお祭り等へはオンラインという形で今年度は参加。

保護者への説明責任等	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達 の状況や課題について共通理 解を持っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 日々の連絡帳や随時行う面談等 を通して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、親子通園 が殆ど行えず、保護者の方と 発達などについて話す機会は 減少したが、電話を利用した り、希望により個別での見学 の機会を持ったりした。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る 観点から、保護者に対して家 族支援プログラム（ペアレン ト・トレーニング等）の支援を 行っている	11	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 育児経験のある保護者の話が参 考になっている（保護者） ペアレント・トレーニングとし て体系化されたものは導入し ていないが、関わり方・伝え方 などその時々に応じて相談し ながら一緒に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのことを学ぶ会があると 良い（保護者） それぞれの家庭の事情を考え、 家庭支援という視点で取り組 む。
	③⑫	運営規程、利用者負担等につい て丁寧な説明を行っている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 契約時や重要事項説明書の説明 会にて行っている。 	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの 「児童発達支援の提供すべき支 援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童 発達支援計画」を示しながら支 援内容の説明を行い、保護者か ら児童発達支援計画の同意を得 ている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への説明の際に、ガイド ラインの項目を確認しながら 行っている。 	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育て の悩み等に対する相談に適切 に応じ、必要な助言と支援を行 っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳がわかりやすく、面談等 の助言も助かっている（保護 者） 個別面談、連絡帳、親子通園、 電話などご家庭に合わせて行 っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳のやりとりには限界が あるので面談回数や電話相談 を増やして欲しい（保護者） 家庭と園では子どもの様子が 違うので難しい（保護者） ③⑩とも関連するが、支援者側 の理想を回答としてしまわな いよう、ご家庭それぞれの事 情に留意しながら取り組む。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、 保護者会等を開催する等 により、保護者同士の連携を 支援している	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会に活動場所を提供する 等の協力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の親子通園を通じて保 護者同士の関わりの場を設け ていたが、感染症対策のため に機会が大幅に減少してい る。 保護者だけで会う機会を増や して欲しい（保護者） 弊園のような事業所の特色で ある、保護者が一同に会す 機会を持つということが、感 染症対策のために出来なくな っているのは大きな課題のひ とつである。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や 申し入れについて、対応の体制 を整備するとともに、子ども や保護者に周知し、相談や申 入れがあった場合に迅速かつ 適切に対応している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 朝終礼だけではなく施設長ある いは課長へ対応を仰ぐことが スムーズに行われている。 クラス職員により解決したも の報告が迅速になされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し入れや相談等を言い出せな い、あるいは言わない方々もい ることに留意する。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動 概要や行事予定、連絡体制等 の情報を子どもや保護者に対 して発信している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の園だより、2週に1回 の活動予定表で発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んでもらえるよう、見やす さにも留意する。
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意 している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 「個人情報持ち出し簿」を使用 する等して管理している。 「個人情報取り扱い同意書」に て同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 同意書による同意に関わらず 個人情報を利用の際はその度 に同意を得ることとしてい る。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的手掛かり等を活用している。 ・語気、言葉の選び方等に留意する。 ・日本語が母国語でない保護者へわかりやすく伝える方法などを、その都度検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝えた」ではなく「伝わった」かどうか、また、情報が偏らないよう留意する。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉園祭、夏祭り等の行事は今年度、縮小あるいは中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため昨年、今年と実施が困難。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が口にする可能性のある物や場所については食品添加物アルコール製剤を使用して毎日消毒している。 ・ユニ・チャーム社の口元が見えるマスクの検証が政府で行われているはずであるが続報を待っているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクで大人の口元を見ることができないことが、幼児の言語獲得にどう影響するのか。また給食を児童と一緒に食べることも止めているため、咀嚼を始めとした食べることのモデルを示すこともできなくなった。幼児期の経験の有無がどう影響するかはすぐに明らかになるものではなく、元より因果関係の検証も難しいため、大きな課題と感じている。
非常時等の対応	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回、避難訓練を行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難扉の存在を意識し周囲に物を置かないよう徹底する。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医による健診も含め入園前に聞き取っている。 ・予防接種は母子手帳で確認、てんかんは主治医訪問・受診同行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認しているが、発作については環境要因もあるので、事前調査のみでは不十分になってしまう。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の偏りが無いよう代替食を提供している。医師の指示書に基づき、区内共通のアレルギー対応表を使用しながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の場面以外でも原因食物に触れることが無いよう、全員の手洗いや清掃などにも引き続き留意していく。 ・玉子未使用の食材を全児童で使用（誤配防止）。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの他に「気づいたことノート」を共有し、気づいたことは何でも記入しておくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートでは安定して記入が続いているとは言い難い面があり、別の道具(ホワイトボード等)を検討中。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関するセルフチェックを行っている。今年度より3ヶ月毎に行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国保育士会編の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用。
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・静止も含め、身体や運動の調整に際し大人が手を添えて行うこともある、ということを支援計画に記載し、保護者に確認をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険回避など、やむを得ない場面で身体拘束を行わなければならないことについて、保護者には拘束とはどんな方法か、どんな場面で行う可能性があるか、重要事項説明書などで説明をする。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、保護者の方からの評価も踏まえ、事業所全体で行った自己評価です。